

事業名 阿蘇ボランティア入門塾

- [主 催] 国立阿蘇青少年交流の家
 [後 援] 熊本県教育委員会
 [期 日] 令和6年6月15日(土)～6月16日(日)【1泊2日】
 [活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家
 [参加者] 大学生33名 高校生9名 計42名
 [講 師] 高見 大介 氏(日本文理大学)
 薄井 良文 氏(WakuWakuOFFICE あそ Be 隊)
 [担当職員] 阿蘇青少年交流の家2名
 [ボランティア] 法人ボランティア5名

1 趣 旨

- (1) ボランティア養成研修をとおして、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- (2) 施設職員や先輩ボランティアとの交流を通じて、青少年教育施設におけるボランティア活動の魅力に触れ、法人ボランティアとしての登録と活動への意欲を促す。
- (3) 熊本県内の県立社会教育施設と連携し、ボランティア活動の選択の幅を広げる。

2 目 標

- (1) ボランティア入門塾の受講者全員がボランティア登録を行い、今後行われる実際の教育事業等においてボランティア活動に参加する。
- (2) ボランティア入門塾に参加者が主体的に参画し、参加者の8割が本事業に「満足」を感じる。

3 事業展開

- (1) 研修プログラム

1日目 6月15日(土)		2日目 6月16日(日)	
10:30～11:00	開会式	7:15～ 7:30	朝のつどい
11:00～12:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術① (アイスブレイクの目的理解)	7:30～ 8:30	朝食
		8:30～ 9:00	宿泊室の清掃・退所点検
12:00～13:00	昼食	9:00～12:00	【講義・演習】安全管理 講師：薄井 良文 氏
13:00～14:30	【講義】ボランティア活動の意義 講師：高見 大介 氏		12:00～13:00
14:30～14:45	休憩	13:00～14:00	【講義】青少年教育施設におけるボランティア
14:45～16:00	【講義】青少年施設の現状と運営	14:00～15:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術④
16:00～18:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術② (危険予知トレーニング、刃物と火の取り扱い)	15:00～15:30	閉会式
		15:30～	解散
18:00～19:00	夕食・休息		
19:00～20:30	【講義】青少年教育		
20:30～21:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術③		
21:00～22:00	入浴・就寝		

- (2) 活動の様子



【アイスブレイクの目的理解】



【ボランティア活動の意義】



【ボランティア活動報告】



【刃物と火の取り扱い】



【安全管理】



【県立4施設の事業説明】

4 評価、成果と課題

(1) 目的

- ・ボランティア養成研修を通して、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- ・施設職員や先輩ボランティアとの交流を通じて、青少年教育施設におけるボランティア活動の魅力に触れ、法人ボランティアとしての活動について見通しを持たせる。

(2) 評価

① 参加者の満足度（42名全員回答）

質問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体の満足度はどのくらいですか。	回答数(人)	33	8	1	0
	割合(%)	78.7	19.0	2.3	0
当施設の法人ボランティアとして活動したいですか。	回答数(人)	25(とても)	13(したい)	2(あまり)	2(したくない)
	割合(%)	59.5	31.0	4.8	4.8

② 参加者の声

- ・アイスブレイクや座学を通して、ボランティアについて幅広く、楽しく学ぶことができた。
- ・ボランティアとして活動する上で、危険予知や安全管理はとても大事だと思った。実践を交えて学習できたことがとても参考になった。
- ・事業に参加する前は不安が多かったが、運営スタッフやボランティアの方が笑顔で元気よく活動していたので、自分も次第に輪の中に入ることができた。
- ・たくさんのことを学ぶことができたが、スケジュールがきついと感ずることもあった。

(2) 成果

- 先輩法人ボランティアが活躍している姿を参加者に見てもらうため、各講義の進行等を先輩法人ボランティアで役割分担して実施した。参加者により近い存在として、活動の具体的なイメージを伝えることができた。
- 参加者同士のコミュニケーション活動を促すために、固定化された班ではなく、カリキュラムごとに班構成を変更した結果、参加者同士の交流の場を多く設定することができた。
- 県内の公立施設と連携し、公立施設の紹介ボランティア活動に関する内容について施設職員からの説明の時間を設けた。今後、阿蘇のみならず県内公立施設におけるボランティア活動につながる機会を提供することができた。

(3) 課題

- 参加者の感想には「入門塾が楽しかった」という記述が多くあるものの、今後の教育事業に向けた意見は少ない状況である。教育事業参加への意識付けについて検討したい。教育事業参加の希望調査等を実施し、参加者に法人ボランティア活動の見通しをもたせる取組を続けていきたい。